



2月28日

地域中心交流拠点施設 起工式
式辞を述べる栗市長

ごあいさつ

平成30年3月7日

1月のホームページでも、雪害のことをお伝えいたしました。その後も雪は止むことなく降り続け、2月5日未明から8日にかけて、記録的な寒波の襲来により大雪に見舞われました。市では6日早朝に雪害対策本部を設置し、対応にあたらせていただきました。

この間、町内会をはじめ市内事業所の皆さんには、生活道路や通学路の歩道の除雪に積極的にご協力いただきましたことに、あらためて感謝申し上げます。

新年度予算では一般会計の予算総額が204億円ということで、3月定例議会に提出いたしました。よく報道関係者の方から「この数字はどんな語呂合わせになりますか」といったことを聞かれます。204は、ふたつの輪（20、文化会館と連携したカレードによる「文化交流拠点」と本町地区のにぎわいを創出する「地域中心交流拠点」）の「仕（4）上げ」予算、市民協働の「仕（4）掛け」予算といえます。

中央地区に限ったわけではありませんが、行政の役割は市民の皆さんが活躍していただける舞台づくり、ステージを創っていくことです。地域中心交流拠点施設の起工式が2月28日に行われ、来年4月には竣工の運びとなります。拠点と拠点を人が行き交い、賑わいを取り戻す動線が旧北国街道です。

新規事業となる野々市版コミュニティ・リビング創出プロジェクトは、この旧北国街道を核としたものです。往時を偲ぶことも含めて、旧北国街道を舞台にして世代を問わずに、多くの市民の皆さんに「リビング」のように憩い、集う場所として中心市街地の賑わう仕掛けづくりを考えていきたいと思っております。

今月2日から5日まで、長崎県新上五島町で開催された第28回全国椿サミット上五島大会に43名の市民の皆さんと一緒に参加してきました。長崎港から船で1時間40分ほどすると五島列島の北部に位置する新上五島町の有川港に着きます。平地は少なく、傾斜が急な山々にはたくさんの「やぶ椿」が自生しているので、島全体が椿で埋め尽くされているような感じがしました。

椿がご縁で全国各地の自治体とこのようなつながりを持ち、交流を深めている「全国椿サミット」ですが、もともとは平成2年に野々市町主催の「全国つばきフォーラム」がその発端です。その後は「椿サミット」と名を変え、全国を廻りながら平成8年の第6回は珠洲市と野々市町の協同開催、そして去年は第27回を野々市市で開催いたしました。

新上五島町での大会に参加しながら、一年前のことを思い出しました。これ以上の晴天はないと思うような青空のもとで、全国からお越しになられた方々や市民の皆さん、関係する団体の皆さん、そして職員が一体となり、椿サミット発祥の地としての誇りを持てる大会だったと思っております。

今月17日、18日は「花と緑 ののいち 椿まつり」が文化会館を主会場に、中央公園の椿館、椿山と市内各会場で開催されます。また17日には、JR野々市駅南口と交遊舎を会場に「開業50周年記念事業 JR野々市駅フェスタ」が地元の町内会の皆さんが中心となり開催されます。

人が集い、笑顔にあふれるまちづくりは一朝一夕にできるものではありません。かけた時間と、かかわった人の気持ち「歴史」となって残り続けていきます。その「歴史」を積み上げていくことが、今を生きる私たちの責務なのではないかと思っております。